

中国地質用語

— 鉱物名編 ① —

資料室

中国語 日本語 英語

【1画】

一水鉄矾	ゾモルノカイト	szomolnokite
一水硬鉛石	ダイアスポア	diaspore

【2画】

二水矾銅矿	チュラン石	turanite
七水胆矾	硫酸銅鉱	boothite
七水碳铀矿	シャープサイト	sharpite
十字石	十字石	staurolite
八面沸石	フォージャサイト	faujasite
八原云母	オクトフィライト	octophyllite

【3画】

三水矾銅矿	ウズベカイト	usbekite(uzbekite)
三水鉛矿	ギブサイト (水ばん土石)	gibbsite
三斜閃石	エニグマタイト (三斜閃石)	aenigmatite (enigmatite)
三斜石	トリメライト	trimerite
三斜钠明矾	タマルジャイト (タマルガル石)	tamarugite
三斜钙砷石	ワップラーライト (ワップラー石)	wapplerite
三斜镁鉄磷灰石	コリンサイト	collinsite
三斜霞石	アネムーサイト	anemousite, carnegieite
三斜磷钙石	モネタイト	monetite
三斜磷鉄鉄矿	アナパイト	tamanite

三斜磷鉄矿	タープッタイト	anapaite, tamanite tarbuttite
土砷鉄矾	ピッチサイト	pitticite
土碲銅矿	コルヌアイト (コルヌ石)	cornuite
土質堇青石	ピラルジライト	pyrargillite
土黒銅矿	黒銅鉱	melaconite, black copper
土硫铀矿	ウラコナイト	uraconite
上八洞石	サンパルトナイト (上八洞石)	sanpaltonite (johachidolite)

【4画】

【一】

五水泻盐	ペンタハイドライト	pentahydrate
天河石	アマゾンナイト (天河石)	amazonite
天青石	天青石	celestine (celestite)
天青硅孔雀石	デミドバイト	demidovite
天青磷灰石	天青磷灰石	lasurapatite
天然硼酸	硼酸石	sassolite
天然碱	重炭酸ソーダ石	trona
无水芒硝	芒硝石	makite, thenardite
无水矾石	アルミアン	almian
无水鉀鎂矾	ラングバイナイト	langbeinite
无色绿泥石	シェリダナイト	sheridanite
无色榴石	プラゾライト	plazolite
木銅矿	木銅鉱	wood copper
车轮矿	車骨鉱	bournonite
云母銅矿	雲母銅鉱	chalcophyllite

【二】

中长石	中性長石	andesine
中异性石	メソジアライト	mesodialyte
中性针沸石	中沸石	mesolite
中柱石	ミッゾナイト	mizzonite
日长石	サンストーン (日長石)	heliolite
日叶石	陽片石	heliophyllite
日光榴石	ヘルバイト	helvine (helvite)
贝得石	バイデライト	beidellite
少銀黄鉄矿	銀黄鉄鉱	argentopyrite
水丝铀矿	ストウツダイト	studtite
水丝绿铁石	スーザライト	souzalite

水金云母	クルサゲーアイト	culsageeite	水鎂石	ブルーサイト (水滑石)	brucite
水钒矿 (黒水钒矿)	ファントフォッフアイト	vanthoffite	水鎂鉄片石	ショグレナイト	sjögrenite
水钒鈣石	ロッサイト	rossite	水礪錒石	ビーチャイト	veatchite
水钒鉄矿	フェルバナイト	fervanite	水炭鈣鎂鈾矿	スワーツアイト	swartzite
水钒鈾铜矿	センジエライト	sengierite	水炭鈉鈣鈾矿	アンダーソナイト	andersonite
水钒鋇石	ガマガライト	gamagarite	水褐銅矿	ベルナドスカイト	vernadskite (vernadskyite)
水標鈾矿	クラークアイト	clarkeite	水鋳石	アラコン (軟風信子鋳)	malacon
水氣礬石 = 上八洞石 (前出)			水磷鉀石	イングリッシアイト	englishite
水鈣沸石	ギスモンディ沸石	gismondite	水磷鈾矿	ウラノスパタイト	uranospathite
水鈣钒铜矿	ボルボルサイト	volborthite	水磷鈾鈾矿	デュモンタイト	dumontite
水鈉鋁矾	メンドザ明礬	mendozite	水磷鈾鈣矿	ラーモントバイト	lermontovite
水鈷矿	ヘトロジェナイト	heterogenite	水磷鋁石	エゴナイト	フィシャーライト
水鈾矾	ジッペアイト	zippeite			eggonite, fischerite
水鈾鉛石	マシューイアイト	masuyite, vandendriesscheite	水磷鋁鉀石	ミニユライト	minyulite
			水磷鋁鉛矿	プランボグンマイト (鉛ゴム石)	plumbogummite
水鈾鈾矿	モルウラナイト	moluranite			
水緑矾	緑礬	melanterite	水磷鉄石	デルボーキサイト	delvauxite (delvauxene)
水砷鋁铜矿	リロコナイト	liroconite			
水砷鋅矿	水砒亜鉛鋳	adamite	水磷鈣石	イソクラサイト	isoclasite
水砷鎂鈾矿	ノバセカイト	novacekite	水磷鈷矿	チャーチ石	churchite
水砷錳石	アルセノクラサイト	arsenoclasite	水鋅磷矿	マッケイアイト	mackayite
水砷礬鈣石	カーナイト	cahnite	水胆矾	プロシヤン銅鋳	brochantite
水鋁石 = 一水硬鋁石 (前出)					
水鋁矿	ベーマイト	boehmite (boemite)	【ノ】		
水鋁英石	アロフェン	リーマンナイト	毛石	ブライスラカイト	breislakite
		allophane, riemannite	毛赤銅矿	毛赤銅鋳	chalcotrichite
水鋁鈣氟石	プロセアイト	protheite	毛矾石	アルノーゲン	alunogen
水鉛氟石	プロソパイト	prosopite	毛沸石	毛沸石	erionite
水銻鉛矿	含水アンチモン鋳	bindheimite	長石	長石	feldspar
水蛭石	ゼフェリサイト	jefferisite			
水硅鈷鈾矿	恵那石	enalite	【\】		
水硅鈷鈉石	ムルマナイト	murmanite	方英石	クリストバル石	cristobalite
水硅鉄矿	ギリンジャイト	gillingite	方沸石	方沸石	analcime (analcite)
水硅錳矿	リュウコフェニサイト	leucophoenicite	方柱石	スカポライト	ウエルネライト
					scapolite, wernerite
水硅錳鎂鋅石	ゲージアイト	gageite ngerite	方鈉石	方ソーダ石	sodalite
水菱鈳矿	テングライト	tengerite	方鈷鉄矿	ライン鋳	reinite
水斑鈾矿	アイアンシナイト (紫色石)	ianthinite, ianthite	方鈣鈷鋳	ベッケライト	beckelite
			方鈾矿	ウルリッヒ石	ulrichite
水鋅矿	亜鉛華	cegamite, hydrozincite	方鉛矿	方鉛鋳	galena
水錳矿	水マンガン鋳	manganite, hydromanganite	方鋇石	方トリウム石	thorianite
			方銅藍	方銅藍	cantonite
水氣鉛矿	ローリオナイト	laurionite	方銻矿	方安鋳	senarmontite
水氣鋁石	フィードレライト	fiedlerite	方黄銅矿	キューバ鋳 (磁黄銅鋳)	chalmersite, cubanite
水氣鎂石	ビショファイト	bischofite			

方輝銅礦	ダイジェナイト	digenite	电气石	電気石	tourmaline
方輝錒銀礦	多銀鉍	polyargyrite	叶双晶石	フレモンタイト	fremontite
方晶石墨	クリフトナイト	cliftonite	叶钠长石	クリーブランドイト	cleavelandite
方解石	方解石	calcite	叶蛇纹石	アンチゴライト	antigorite
方錳礦	緑マンガン鉍	manganosite	叶緑矾	葉緑礬	copiapite, elaeite
方錳鉛礦	コロナダイト	coronadite	叶緑泥石	ペンニナイト	pennine (penninite)
方錳鉄礦	ビクスビ鉍	bixbyite, sitaparite	叶蜡石	葉蠟石	pyrophyllite
方鎂石	ペリクレース	periclase	叶錒礦	葉状テルル鉍	nagyagite
方礬石	モンテポナイト	monteponite	北投石	北投石	hokutolite
方礬石	方礬石	boracite			
方黝銅礦	ハリス鉍	harrisite			
方霜晶石	トムセノライト	thomsenolite			
文石	霰石	aragonite			
六方鉀霰石	カルシライト	kalsilite			
六方氯鉛礦	ペンフィールドイト	penfieldite			
六方鉍鉛石	シンプソナイト	simpsonite			
六方鉄矾	ラウゼナイト	ロジジャー石 lausenite, rogersite			
火色硫錒銀礦	火閃銀鉍	pyrostitpnite			

【フ】

孔雀石	孔雀石	malachite	白鈔華	メーマック石	meymacite
双晶石	ユーディディマイト	eudidymite	白鈔礦	灰重石	scheelite

【5画】

【一】

正方鉦鉍礦	モッサイト	mossite	白鉄礦	白鉄鉍	marcasite
正方磷鉄礦	シャファジカイト	schafarzikite	白鉛礦	白鉛鉍	cerussite
正長石	正長石	orthoclase	白砷石	単斜砒華	claudetite
正玉髓	クオルチン	quartzine	白砷礦	ジネル石	dienerite
正符山石	ウィルイ石	wiluite	白蛇紋石	マーモライト	marmolite
正緑方石英	ルッサタイト	lussatite	白硅鈣石	セントラーラサイト	centrallassite
正銅鈹云母	メタトルバナイト	metatorbernite	白氯鉛礦	メンディパイト	mendipite
石英	石英	quartz	白透輝石	マラコライト	malacolite
石盐	岩塩	halite, rock salt	白錳矾	マン礬	mallardite
石膏	石膏	gypsum (gyps)	白礬鈣石	パンダーマイト, プライサイト	pandermite, priceite
石膏重晶石	ドレーライト	dreelite	白礬錳礦	サセックサイト	sussexite
石榴石	ざくろ石	garnet	白礬酸錳錳礦	マグネシオサセックサイト	magnesiumsussexite
石墨	石墨 黒鉛	graphite, black lead	白榴石	白榴石	leucite
甘汞	角水銀鉍	calomel	白磷鉄礦	チンチサイト	tinticite
古銅輝石	古銅輝石	bronzite	片水錳礦	水酸化マンガン	pyrochroite
			片鉄矾	レイモンドイト	raimondite
			片礬石	グアリナイト	ヒオルダール石 guarinite, hiortdahlite

【1】

四水鈣鈣礦	ピンタドアイト	pintadoite
甲型硅灰石	ラルナイト	larnite

(以下 39 頁 下へつづく)

地学と切手



第19回

国際地質学会議

の切手

P. Q.

第19回国際地質学会議 (International Geological Congress 略して IGC と呼ばれる) は 1952年9月 長くフランスの植民地であった アルジェリアの首都のアルジェで開かれた。日本からは戦後はじめて三土知芳 小林貞一 渡辺武男からなる代表団が派遣され ようやく国際社会に復帰することが出来た。

実際には その前の1948年の第18回会議がロンドンにおいて開かれた時には 日本はまだアメリカの占領下におかれており GHQ の天然資源局の S. K. NEUSCHEL や H. G. SCHENCK が出席し 田代修一が日本人のオブザーバーとして随行出席したにすぎなかった。当時すでにドイツ イタリアは多数の学者をこの会議に送っていたのである。

19回会議はチュニス モロッコも主催者となったので地質見学旅行はこれら3国において行われた。会議の主なテーマは

- ① 前カンブリア紀層の区分と対比
- ② 北アフリカの古生層と世界の他地域との対比
- ③ 岩石の変形と構造地質学的意義
- ④ 海底地形と現世の堆積
- ⑤ 岩脈の成因
- ⑥ 先史人類と化石人類
- ⑦ 過去・現世の砂漠
- ⑧ 乾燥・半乾燥地域の水理地質
- ⑨ 地球物理学の地質学に対する寄与
- ⑩ 鉄鉱床の成因
- ⑪ 燐灰石鉱床の起源

⑫ 地質学上の一般問題

などであった。会議の報告書 Comptes Rendus は22巻が発行された。会議の参加者は 82か国 1,129人である。

ひるがえって第1回の IGC が開催されたのは1878年8月パリにおいてであり その後世界の平和が乱されることが幾度かあったが 組織は解散されることもなく 現在に至るまでつづいて来た。日本人が初めてIGCに参加したのは 1885年のベルリンにおける第3回会議に留学中の和田維四郎の出席であり その後1897年ペテルスブルグにおける第7回会議には巨智部忠承が出席して以来 日本から必ず参加するようになった。第7回には日本から100万分の1地質図が出品されている。IGC の仕事の中には各国の地質調査事業に関係することが多いので 従来はわが国から地質調査所の所員が必ず1人は出席するのが慣例となっていた。しかし IGC 会則のもっとも重要な1項は 地質学の分野に関係のある学者ならば誰れでも参加することが出来 会議の運営方針は各国の政府 学士院 学会 大学などの正式代表で構成された評議員会で討議されるが そこで議決された事項は さらに個人の資格で参加した地質学者の出席した総会の議決で正式に決定され 実行に移されることである。

会議の参加者は回毎に増えて前回第24回モントリオールにおいては101か国3,700人に及び マンモス化に対する反省が生れるにいたった。25回は1976年8月16日から25日にわたって オーストラリアのシドニーで行われた。この時は2800人の研究者 450人の同伴者 350人の学生が参加し 日本からも61名という最大の多数がみられた。提出された論文は 分科会 770 シンポジウム 425 と前回より多く 日本からも39の論文が提出された。しかし経費の面では モントリオール会議の約4分の1 25万オーストラリアドル(約1億円)となり この点で反省がみられる。今回は中国の IUGSの加盟台湾の追放もあり 論議の的ともなった。

次の第26回は IGC 100年を記念してパリで行われることになっている。が その次の1884年第27回会議は日本も招待立候補3国のひとつになった。会議がアジアで開く意義が強調されているおから行方が注目される。

切手 は 1952年8月11日発行のもので 15f は化石オーム貝 *Berbericeras sekikensis* 30f は礫岩の岩脈である。